■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて⑰

なぎなた授業の実践報告と必修化の課題

大阪府富田林市立葛城中学校教諭
大野　京子

以前、月刊「武道」で公立中学校における〝なぎなた〟の部活動の実践について書かせていただく機会を得て、「〝なぎなた〟の部活動が指導者不足のため、その継続性が厳しい」といった現状を述べさせていただいたことがありました。そのような中、先般の学習指導要領改訂による平成24年度からの武道必修化は、〝なぎなた〟の普及を後押ししてもらえる、またとない機会ととらえています。同じ道を歩む指導者の方々とともに、〝なぎなた〟普及のために尽力できればとの思いで、今回、私の授業実践内容を紹介いたします。

1 「なぎなた」授業の目的と実際

（1）本校の「なぎなた」授業

5年前に現任校に赴任し、選択授業で「なぎなた」講座を開設して4年目の昨年、平成24年度からの武道必修化の先取りで正課授業（体育）に「なぎなた」を取り入れていただきました。

本校では、

①年に2度実施される選択授業発表会の後期で、「なぎなた」受講者の代表者が、防具を着用し試合を披露していたこと

②夜、体育館をお借りしての国体強化練習の実践で、「なぎなた」を見知っている生徒が多かったこと

③体育担当教員の専門種目ということ

以上3点から、「なぎなた」を全く知らないという生徒が少なく、男子生徒もすんなり「なぎなた」の授業についてきてくれました。

（2）授業で何を学ばせるか

授業の実践にあたっては、「なぎなた」を通して何を学ばせるのかを、体育教員自身が明確に持っていることが大切です。また、毎時間の授業の目標を生徒にわかりやすく明示することも必要です。

私は、

①日本の伝統的な行動様式に触れる機会を持たせ、日常生活で行われなくなってきた正座や、静と動のけじめある身体の処し方に触れさせること

②なぎなたのバリエーション豊かな動きを体験し、達成感や充実感を味わわせること、特に運動の苦手意識が強い生徒にも取り組みやすい内容にすること

③一見、窮屈（きゅうくつ）そうに思える約束事の体得をとおし、相手を尊重する態度を表現することを学ばせ、日常生活の中で生かすこと

以上の3点を「なぎなた」授業の柱と考えました。年間わずか6時間ですが、これらの柱を基にした毎年の授業実践の積み重ねが大切だと考えています。

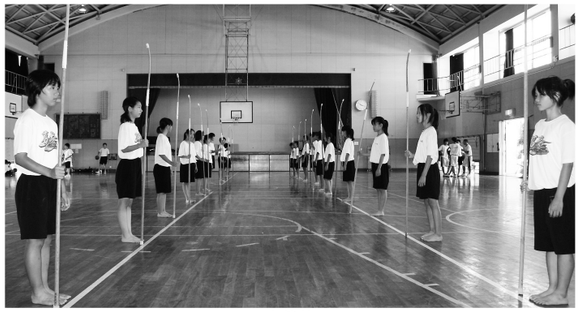
（3）授業時数の実際

平成20年度は、私の担当学年である1年生83名を対象に「なぎなた」の授業を行いました。実施時期は、入学後すぐの時期で、素足が心地よい季節ということで1学期に実施しました。集団行動・スポーツテストを実施後、私が男子に武道（なぎなた）を、その間、同じく1年生を担当する男性教諭は女子に器械運動を指導しました。男女交代して女子の武道が終了すると、水泳の時期になります。1学期

の授業時間数の実態から、武道は6時間で実施しました。

新学習指導要領によると、各領域の実施単位数は12～13時間程度になりそうですが、現場の時間数はカレンダー通りに確保されることはまずありません。本校の場合、21年度は1学期に、1年生が宿泊訓練・2年生が宿泊学習（共に集団生活における規律などを学ぶ学校行事）・3年生が修学旅行と、それぞれの学年で実施されたこと、5月に新型インフルエンザによる1週間の休業があったことなどで、授業時間数は例年に比べてかなり減少しました。さらに、現任校のような小規模校では、男女1名ずつの体育科教員の配置が一般的で、宿泊行事のつど、もう一人の体育科教員の出張とのからみで時間割の変更が行われ、授業時間数はどんどん減っていきます。他にも、4月に家庭訪問、5月に中間テスト、6月に期末テストと、学校行事が重なり、1学期の時間数は13週で39時間が、実際は29時間になってしまいました。このような状況をみると、新学習指導要領に示された単位数を実践するのは、実際には困難だと思われます。

21年度は、1、2年生の1学期に「なぎなた」の授業を実施する計画を立てましたが、前述の時間数の減少に加え、教育実習が5月下旬から3週間あり、しかも2名（ともに女性）という状況で、女子の武道の時間を確保することができなくなってしまいました。ぜひとも2学期には実施しようと考えております。


自然体

面の柄受け

脇構えからの胴打ち

2 指導計画

ここで、中学校1、2年生の授業計画（**表1**）と、それぞれ2、3時間目の指導計画（**表2～5**）を紹介します。また、授業を実践した経験から、その狙いと注意点を左記のとおりまとめました。

【1年生の授業】

1年生では、なぎなたの操作法のみで6時間があっという間に終わってしまいますが、興味を持続させるために、打つという技能を中心に展開を考えました。また、打たせるためには、打たれるものがないと成立しませんから、一見難しそうに思える受け技も取り入れました。振り上げ面は回数を重ねると、手足のコンビネーションがスムーズになり、少しは体を使った面打ちができるようになってきます。しかし、側面・すね打ちは、なぎなたが体から離れ、この段階では周りの人に迷惑をかける振り回しになってしまいます。したがって、今年度は八相の構えから後ろ足だけを一歩前に踏み出し、体が180度回転しおえてのちに、

表1　なぎなたの授業計画（中学校1、2年）

目的：わが国の伝統と文化に培われたなぎなたを正しく伝承して、なぎなたの理念に基づく指導を行う。
単元目標
[運動技能・体力]
・なぎなたの基本動作を正しく指導し、気剣体一致の技を身につけさせる。
・なぎなたの練習を通して、特に瞬発力、筋力、全身持久力、調整力(巧緻性)等の体力を向上させる。
[関心・意欲・態度]
・なぎなたの学習の仕方を理解させ、相手を尊重した態度で行わせる。
・礼儀作法を正しく指導し、端正な礼を実践させる。
[思考・判断]
・仲間と協力して技を教えあいながら課題に取り組ませる。
[健康・安全・生活化]
・自分の身を危険から回避することや、けが等への防止に努めさせる。
・なぎなたに必要な体力トレーニングを自宅でも実践できる能力を育てる。

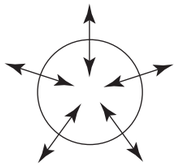
学年		1年		2年
時間		6時間		6時間
指導内容	1	オリエンテーション 歴史・特性・授業の仕方 自然体・中段の構え・振り上げ 振り下ろし・面打ち	1	復習 歴史・特性・授業の仕方 自然体・中段の構え・面打ち・ 側面打ち・すね打ち・打ち返し
	2	礼儀作法・所作・足さばき 体さばき・振り上げ面・ 面の柄受け・八相の構え 側面打ち（前進・後退）	2	しかけ応じ ビデオ 1本目
	3	八相の構え 側面打ち（前進・後退） すね打ち（前進・後退）	3	脇構え・胴打ち 振り返し面
	4	二本打ちと受け方 面・側面　面・すね 側面・すね　すね・側面	4	しかけ応じ（3本目・5本目）
	5	打ち返し（前進・後退） 打ち返しの受け方	5	しかけ応じ（1本目・3本目・5本目）
	6	評価 打ち返し	6	評価 しかけ応じ（1本目・3本目・5本目）

表2　指導計画（1年生2時間目例）

	生　徒　の　活　動	教師の支援
導入	準備運動を行う。 挨拶 本時の学習内容を知る。	声をしっかり出しているか。 正座の仕方を確認する。 側面打ちを示範する。
展開	復習　自然体・中段の構え・面打ち・面の柄部受けを行う。 ◎ ○ ○ ○ ○ ○←○ ↑ ○→○ ○ ○ ○ ○ ○ スピードを早めたり、力を少し込めて打つ。 安全な柄部の面受けを行う。 右手の握りを強くして打つ。 八相の構えを知る。 なぎなたが体に沿っているように行う。 八相の構えから側面を打つ方法を知る。 腕を伸ばすタイミングを早める→側面打ち 八相の構え→側面打ち→八相の構え→側面打ち 後退しながら側面を打つ。 相対姿勢になり側面打ちを行う（前進：後退）。 後退する人が号令をかけて行う。 相手をかえて側面打ちを行う（前進：後退）。	体の向き＝半身＝足の位置、手の位置を意識させる。 手足の動きを滑らかに行わせる。 額の高さで20㎝離して受けさせる。 手のしめ（握り）について簡単に説明する。 構えから体を 180 度回転させたのち、両腕を伸ばすようにさせる。 足の踏み出しと、腕の移動が滑らかになるように行わせる。 八相の構えで混乱する生徒が続出するので、示範しながら行う。 相手の下がる距離を考えて前進して打たせる。 安全な間合いで行わせる。
まとめ	次時の学習について知る。 挨拶	相手と二人で力を合わせることを意識させる。 正座して本時の学習内容を振り返らせる。

体育とスポーツの総合出版 株式会社ベースボール・マガジン社
＜オンラインショッピング＞http://bookcart.sportsclick.jp/
＜電話&FAX＞☎025-780-1231　FAX025-780-1232［共に別途送料がかかります］
近代柔道 Judo 9月号 特別定価 840円（税込）
全国の柔道ファン必見の本格派専門誌！
金鷲旗高校柔道大会 男子──東海大相模が3連覇で2冠達成！
女子──埼玉栄、春に続く優勝
［ユニバーシアード競技大会］3人が金メダル獲得、団体は女子が優勝！
ロッテルダム直前！　全日本女子合宿リポート
［入門！一流の技術］飛塚雅俊5段の「大外刈り」
好評発売中
近畿インターハイ詳報！
☆男子団体☆女子団体☆男子個人☆女子個人

表3　指導計画（1年生3時間目例）

	生　徒　の　活　動	教師の支援
導入	準備運動を行う。 挨拶 本時の学習内容を知る。	声をしっかり出しているか。 正座の仕方を確認し、姿勢を正して行わせる。
展開	復習　面打ち・柄部の面受け 側面（前進：後退） 間合いを正しく取る。 すねを打つ（前進：後退）。 相対姿勢になりすね打ちを行う（前進：後退）。 後退する人が号令をかけて行う。 円陣で空間打突練習を行う。 （右の図は生徒の動く方向） 順番に号令をかける。 大きい声で号令をかける。 	スピードを出して打たせる。 八相の構えが体に沿っているかを確認させる。 手のしめについて確認する。 相手の下がる距離を考えて前進して打たせる。 安全な間合いで行わせる。 気持ちのこもった発声をさせる。
まとめ	次時の学習について知る。 挨拶	腕の力で打つのではなく、体の回転で打つことを押さえる。 なぎなたをもって正座する方法を伝える。 本時の学習内容を振り返らせる。

両腕を伸ばすように指導しました。この方法で行うと、体と一体でなぎなたを操作できる生徒が多くなり、怪我の心配もほとんどなくなりました。

気持ちいっぱい、力もいっぱい込めて打つ、という単純なことに対して素直に行えたのは、女子よりも男子でした。女子も時間の経過とともに、気持ちを込め力いっぱい打つことに目覚め、楽しめるようになりました。

【2年生の授業】

2年生は、しかけ応じ技を行い、2人で作り上げることに重きをおきました。自分が正しく行うことで相手の技が光り、その輝きが自分の技を向上させていくことを感じ、人が人と繋（つな）がることの意味を理解させたいと考えました。したがって、クラスの全員と相対姿勢で向かい合い、気持ちいっぱい力いっぱい打ち、そして受けさせることを中心に授業を展開しました。

しかけ応じ技は1～8本目までありますが、どれを行わせるのかという点で、力いっぱい打ってダイナミックさを感じる技のある、3本目か5本目をさせようと考えました。社会体育で、「なぎなた」をじっくり丁寧に稽古させる場面では1本目・2本目・4本目という順で指導するのが定番ですが、授業では、

①胴打ちで力いっぱい打てること

②難易度の高い、振り返し面にあえて挑戦させること

を理由に3本目をさせることにしました。

狙いは的中し、難度の高い振り返し面は、自分のやりやすいように、振り上げる生徒、振り回して打つ生徒が多く出ましたが、難しい技に挑戦することで意欲が増し、さらに、評価するときの内容になると知ると、嘘（うそ）のように上手に振り返し技をマスターしました。

払い技については、動きのキッカケとしてとらえさせ、払いが利いた、利かないといった専

門的なとらえ方はさせませんでした。

また、巻き落とし技も払いとして扱い、ダイナミックに打つことに集中させました。そして基本の1本目にダイナミックに打てる3本目、途中まで同じ内容の5本目を、演技競技形式でまとめさせました。2年間で合計12時間の出来栄えとしてはかなり優秀ではなかったかと自負しております。

生徒の感想をいくつか紹介します。

「僕はいつも練習でやっていたようにできなかったし、動きも硬かったと思う。でもY君との距離がうまくとれてよかった」。そのお相手の感想「僕はいつも突きがうまくできなくて本番を迎えてしまって、本番でも突きがうまくできなくて、ショックでした。でもI君がカバーしてくれて良かったです」と、2人で協力して仕上げ、相手に感謝の気持ちを表現していました。

「去年やったのより多くあって覚えるのが難しかったし、カウンターの面や突きがかっこよかった」

「僕は剣道をやっていたけど、剣道とはまた違っていてとても難しかったです。でも楽しかったです」

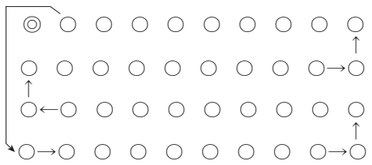
「練習している時に先生に指摘された所を意識してやったから、練習している時よりは本番のほうがうまくできているような気がした。受ける時もっとギリギリまで待てばよかった」と、指導計画のねらい通りの反応を示しました。

相対姿勢で練習を行う場合は、礼を重視し、必ずはっきりした発声で「お願いします」「ありがとうございました」を言わせました。シャイな中学生期は「おはようございます」「ありがとうございました」の挨拶を、無言で首をこくりと傾けて済ませてしまおうとします。はっきりと声に出して挨拶することに慣れさせ、日常的に挨拶できる生徒の育成をめざしました。

表4　指導計画（2年生2時間目例）

	生徒の活動	教師の支援
導入	準備運動を行う。 挨拶 本時の学習内容を知る。	声をしっかり出しているか。 正座の仕方を確認する。
展開	ビデオを見る。 しかけ応じ1本目をする。 しかけ応じの動作を号令でゆっくり行う。 「1･2、3･4、5･6、7、8、もとい」 応じが号令をかけて行う。 1呼吸の動きで行う（号令なし）。 相手をかえて何回も練習する。 号令をかけずに自由に行う。	しかけ応じ1本目 ～8本目 正しい構えを取らせる。 体さばき、足さばきを丁寧に説明する。 相対姿勢、立ち間、打ち間 着眼について説明する。 理合いを易しく説明する。 しかけが正しい間合いで全力で打つことが出来栄えを左右することを理解させる。
まとめ	次時の学習について知る。 挨拶	相手と二人で力を合わせることを意識させる。 正座して本時の学習内容を振り返らせる。

表5　指導計画（2年生3時間目例）

	生徒の活動	教師の支援
導入	準備運動を行う。 挨拶 本時の学習内容を知る。	声をしっかり出しているか。 正座の仕方を確認する。 前時の確認をし、本時の学習内容を伝える
展開	復習　しかけ応じ1本目 （相手を替えて何回も行う）  脇構えを知る。 脇構えから胴を打つ方法を知る（前進・後退）。 腕を伸ばすタイミングを早めさせる。 相対姿勢で胴を打つ。 なぎなたを立て、柄部で受ける。 なぎなたを繰り込み、刃部で受ける。 相手のことを考えながら、精一杯の声と力を出して打つ。 振り返しを知る。 片手でなぎなたを持ち、頭上で手首を返し8の字を描く。 中段の構えから振り返す。 振り返し面を打つ。 胴→振り返し面を打つ。 胴→振り返し面を刃部で受ける。 相対姿勢で胴・振り返し面を打ち、受ける。 体さばきと払いを知る。	打ち間、立ち間を意識させる。 正しい打突（気剣体一致）を意識させる。 構えから体を180度回転させたのち、両腕を伸ばすようにさせる。 号令で一斉に行わせる。 安全な間合いを意識させる。 手足を動かすタイミングを注意して行わせる。 安全な間合いで行わせる。 払いは動きのきっかけとしてとらえさせる。
まとめ	次時の学習について知る。 挨拶	腕の力で打つのではなく、体の回転で打つことを押さえる。 正座して本時の学習内容を振り返らせる。

【評価】

評価は、実技点70％、参加点30％とし、1年生では打ち返しの技の習得度40％・発声20％・着眼10％の割合で1人ずつ打ち返しを受けながら（実際私が防具を身につけて受けました）評価しました。2年生では、演技の完成度60％、発声10％の割合で評価しました。体育における「なぎなた」の評価が占める割合は、実施時間数で決めました。この評価の仕方は、多くの生徒の指導を経験していないと難しいかもしれません。しかし、構え・面打ち・側面打ち・すね打ちと項目を細分化すれば、経験の少ない方にも評価は可能だと思います。

今年度の授業で強く感じたことは、正座ができない生徒が多くなったことです。昨年度、評価の時間にじっと正座をし、同級生の打ち返しを見て、上手なポイントを記述していた姿が脳裏にあったのですが、今年度の毎時間の挨拶、評価の時間では、

多くの生徒が怪我のため正座ができないとのことでした。部活動における怪我のようで、中学生の運動量や内容は適切なのかと思ってしまいました。

筆者の指導風景

3 課題と問題点

武道必修化に向けた取り組みについては、市や地区の保健体育研究会でよく話題にのぼります。柔道は畳やマットの準備、剣道は剣道防具の準備、相撲は相撲場の準備、そして最大の難関、指導者の準備について論議されています。

「なぎなた」の授業を実施するには、1本4、000円程度のなぎなたを40本揃えれば体育館で実施でき、防具がなくても変化に富んだ活動をさせることができますが、「なぎなた」を教える指導者の確保についてはこれからの重要な課題です。男性の体育科教員のほとんどは、柔道や剣道を経験しています。数時間の実技講習を受講すれば、指導者として正課授業で武道（柔道、剣道）を導入することは可能でしょう。しかし、「なぎなた」の経験者はごくまれであり、実技講習会などの機会も少ないのが実情です。「なぎなた」は、指導時の怪我の少なさにおいても安心して行える種目だと考えますので、体育科教員の実技講習会を広く展開していただきたいと望んでいます。

教師が「なぎなた」の経験が少ないことから、評価が主観的になってしまうのではないかという理由で、生徒や保護者の理解が得にくいのではと心配する声があります。しかし、体操競技の専門でない私が、器械運動の指導で評価を行っているのと同様、経験を毎年少しずつ積むことで、クリアしていけるものと考えます。

また、それには体育科教員が陸上や水泳と同様に「なぎなた」の指導ができるような教材が簡単に手に入る環境づくりも必要です。しかし、現状はというと、現在、富田林市で使用している副読本「図解中学体育」には、柔道・剣道・相撲だけが掲載されており、「なぎなた」をはじめ、他の武道種目は名前すら挙がっていません。

さらに例を挙げれば、今年度4月、市の教育委員会の調査で、24年度武道必修化に向けて施設備品の要望が取りまとめられました。「さすが、昨年の必修化の話で予算が計上された話が動き出したんだ」と思ったのもつかの間、この原稿を仕上げる頃には、ゼロ査定の報告を受けました。

公立中学校の武道場設置率は47％だそうですが、本市のように8校中1校しか武道場がない地域もあります。また、本府のように府立武道館がない県もあります。全国には武道に深い理解を示している地域もあることを考えると、とても残念です。武道に対する考え方が地域によってこんなにも違うのかと感じています。

昨年度、さっそく教員向けの「なぎなた」の講習会を実施した地域もあったとか、教育委員会が学校教育におけるなぎなたの導入に向け、積極的に始動したとの話も聞きます。各地域の特性を活かし、「なぎなた」が中学校体育の正課授業に導入され、市民権を得て、青少年の育成に貢献できることを期待します。

4 おわりに

本校のトイレ専用スリッパが乱雑に取り扱われている現状に心を痛めていた私は、「なぎなた」授業の実践で、「あのスリッパが美しく揃えられるのではないか」とひそかに期待していました。しかし、そう簡単に変化はしてくれませんでした。今も清掃終了後にしかスリッパが美しく揃えられていない状況に、ため息をついております。

クラブ活動中の生徒の上履きは、体育館入り口付近の階段にきれいに揃えられており、それを見るとクラブ指導者のしっかりとした生徒指導がうかがえます。しかし、トイレのスリッパは一向に揃いません。誰が見ていなくとも、自然に履物を揃え、次に使う不特定多数の人への心配りができる、そんな生徒集団を目指して、「なぎなた」の授業を実践してゆきたいです。

本校では、各教室の授業での始めと終わりに、「お願いします」「ありがとうございました」というしっかりとした挨拶がどの教室からも聞こえてきます。担当教員が暗黙のうちに発声して挨拶を行わせており、毎時間のそのような積み重ねが、落ち着いた雰囲気で学習に臨む学校規律を作り上げています。

生徒は大人のありようでいかようにも成長します。携わる教員・保護者が意思疎通を図り、普段からコミュニケーションの場をもち、大人同士が繋がっていることが、生徒同士の繋がりにも通じると思います。

「なぎなた」の授業により、相手を尊重する態度が育まれ、授業ばかりでなく日常生活のなかでも、その教育効果が表れることを願ってやみません。

【参考文献】

月刊「武道」平成20年7・8・9月号、平成21年2・5月号

「日本教育新聞」購読者特典
Q&A 教育を応援するコミュニケーションサイト
先生解決ネット
※日本教育新聞社の運営サイトです。
日本教育新聞社
“先生方をもっと応援していこう!”
を合言葉に、昨年オープンした
ホームページが「先生解決ネット」。
Communication
教育専門 Q&A
先生方が日頃抱いている疑問や課題を、
全国の「同僚」と共有し、知恵を出し合いながら
答えが導けるように、応援するための
教育専門 Q&Aサイトです。

Archive & Searc
教育専門 ニュース
新聞を通じて得た情報を、必要なときに引き出し、
より日常的にご活用できるように、
応援するための教育専門 ニュースサイトです。

イラストレーション:石ノ森章太郎
アクセスはこちらから
www.kyoiku-press.com